

木木是好日

きぎ・これ・こうじつ

都市部から地方へ移り住み、地域課題の解決やさらなる活性化のために活動する「地域おこし協力隊」。
日頃の取り組みの様子やその思いを、皆さんにお伝えします。

Vol. 7 「やってみる機会」

地域おこし協力隊7か月目。真夏のような日があったかと思えば、急に肌寒くなったり・・・。

そんな中、相変わらず製材や木工加工に追われながらも充実した日々を送っています。桑野山の貯木場には町民の方々が訪ねてきてくれます。

アイディアだったり、依頼だったり、山のこと木のこと、この町のこと。

そんな話を聞かせていただいて、勉強になったり、活動のヒントをいただいたり・・・。
やりたい事は増える一方ですが、とにかくひとつひとつコツコツ進めていきます。

木工旋盤

いよいよ木工旋盤での商品作りが始まりました。

まずは町内でも作られているインテリア茶箱。

これは茶箱にクッション材や布などで装飾したもので、この脚になる部品を作ります。現在サンプルと量産に向けての準備をしています。
もちろん使用する材は川根のヒノキです。



▲木工旋盤で作成したインテリア茶箱の脚

木の駅かわね

木の駅かわねの実行委員になりました。

今後、板や角材等の在庫や木工品を作っていく上で、できるだけ木の駅の材を使っていきたいと考えています。

さらに、協力隊の活動との連携やアドバイス等いただけたらと期待しています。

木工体験

過去に何度か子供向けの木工体験を行ってきました。

時間内に完成できて、それを持ち帰って使えるような物。大体主催の方からそんな依頼をいただくので、毎回どんなものかいいか頭を悩ませます。
人数が多ければ、完成までの時間に個人差がでます。

それを解消するために、小さい板や枝、細い丸太の輪切りなどを箱に入れておき、「決められたものが完成したら、この材料で好きなものを作っていいよ」と言っておくと、いつもより集中して短い時間で完成させて、自由課題を始めます。

子供たちは端材にしか見えないような材料で、様々な作品を作っていきます。

そんな中で「こうしたいけれどどうすればいいか」という質問もたくさんあるので、提案したり、やって見せたりします。

子供たちにはたくさんさんの「やってみる機会」の中で、自分に合っていることを見つけたら、経験を増やしていくことが、自分に置き換えて考えても大切なのではないかと思っていますが、いかがでしょうか？



● 鈴木 健二 すずき・けんじ

神奈川県逗子市出身。東京、静岡の石油販売会社に勤務したのち、個人で間伐と木工の仕事を開始。協力隊として、桑野山貯木場で製材・木工機械の管理と、地域の木材の利活用促進に向けた「木」や「森林」に携わる活動に取り組む。最近の関心は、古民家や農業のほか、少し昔の時代のくらしや道具など。前居住地は静岡市清水区。

